

第5・6学年 国語科学習指導案

日 時 平成30年11月16日(金) 5校時
学校名 稚内市立声問小学校
児 童 5年1名 6年2名
授業者 ○○ ○○

1. 単元名 5年 「子ども句会をしよう」～俳句や短歌で表現することを楽しもう～

書く 言葉の使い方を工夫して俳句・短歌を作る

6年 「心の世界について考えよう」～『ぼくの世界、きみの世界』を読んで～

読む 文章の内容を的確におさえて、要点や要旨をとらえ、自分の考えを広げたり、深めたりする。

2. 単元について

5年 「子ども句会をしよう」～俳句や短歌で表現することを楽しもう～ 書く

この学習では、まず教科書教材の児童作品から、俳句や短歌の特徴を学ぶ。そして身近な児童の作品や俳人たちの作品を使って、句作の工夫や技を学び、作品作りに取り組んでいく。俳人坪内稔典は「感動は作った結果として表れる」「先にある感動を表現するのではなく、表現することで感動を体験する、あるいは表現を通して感動を発見する、それが俳句の特色なのだ」(坪内稔典「小学生のために俳句入門」くもん出版)と、語っている。感動ありきではなく、創作活動を通して、人それぞれの言葉の風景に気づいていける、そして言葉の風景の豊かさに気づいていける、そんな学習過程をたどりたい。5年生の児童は、学力テスト的には高い力を持つ。また、家でも映画やドラマを楽しむ事が好きで、台詞の言い回しなどから学んだ語彙力も持つ。その一方で作文や物語作りの単元では、できばえに対しての自信がなく、教師の顔色を見たり、何度もなんども書き直しているだけで時間が過ぎてしまう姿がある。そこで、枚数や時間の指定をし、一人で書き切ることをめあての一つにすること、そしてできた作品は、彼の自信につながるように、担任外の教職員や上学年児童に評価を返してもらうことも大切にしてきた。ここでは、スモールステップで俳句の作り方を体験すること、そして単元の最後には「声問小句会」を設定し、先生や上学年の仲間と俳句や短歌を交流し、一人ひとりの感じ方や表現方法をの違いや良さを味わうことで、「俳句って楽しい」「また書いてみたい」という「書く」こと、また文章表現への意欲につなげていきたい。

6年 「心の世界について考えよう」～『ぼくの世界、きみの世界』を読んで～ 読む

筆者の西研は「論理の展開を追いつつ、いったいこの人は何でこんなことを言わなくてはいけないのだろうか、どういう生きている場所や生存の条件のもとで、どういうことが引っ掛かって、何でこんなことを言わなくてはいけないのだろうか、そのことを問いかけ感じ取ろうとする。ぼくはこれが一番大事だと思うのです。」(講演「哲学から見た国語教育」より)と語っている。この単元は、事例を自らの知識や体験と照らし合わせ、「心の世界」という抽象的な世界に目を向け、自身と向き合い、感想文を書くことを目的とした単元である。一学期の説明文単元では「双括文」「頭括文」「尾括文」などの文章構成を学んだり、筆者の考えと事例とを区別して読み取ることを学習してきた。文章構成への気づきは芽生えてきたが、主語の混同や接続詞の理解が進まず、読み取りに苦戦した。その後、習熟の時間なども活用しながら文法の学習を進めてきたが、まだまだ発展途上である。ここでは文末や接続詞を確認することなどを意識させながら、まずは何度も読ませたい。そして文章を正しく読む事と共に、筆者の問いかけに応じながら「自分だったらどうか」と能動的に考えを深めていく読み方を目指して、学習を進めていきたい。

3. 児童の実態…省略

4. 研究主題との関連

研究主題 互いに学び合いともにたくましく伸びる子どもの育成 ～国語の授業作りを通して～

【仮説】つけたい力を明確にし、子どもが自分の考えを持ち、表現するための支援を適切に行うことで、
内容の理解が深まり、自分の考えや思いを豊かに表現することができるだろう

研究の視点と内容	
①授業改善の視点	②学びを支える基盤づくり
<p>○単元構成の工夫（つけたい力の明確化）</p> <p>5年 <u>短歌や俳句を作る楽しさを知る</u> <u>表現の効果を知り言葉の使い方を工夫して俳句・短歌を作る</u></p> <p>①「教科書作品から学ぶ」・俳句（十七音・季語）短歌（三十一音）</p> <p>②「まねをして作る」</p> <p>③「季語から考える」</p> <p>④「十二音を作って季語を選ぶ（取り合わせ）」</p> <p>⑤「発想の転換・比喻表現」</p> <p>というスモールステップで様々な作り方を楽しみ、自分の表したいものを表現する事へつなげていく。また最後に「声問小句会」を開催し、他の人々との感じ方の違いを楽しんだり、お互いの作品へのエールを贈り合ったりすることで、これからの表現への意欲へとつなげていきたい。</p> <p>6年 <u>取り上げられた事例をつかみ、筆者の考え（要旨）をとらえる</u> <u>筆者の伝えたいことに対する、自分の考えを持つ</u></p> <p>①文章構成を把握する「序論・本論・結論」</p> <p>②各段落の要点をとらえる（「問いの投げかけ」「事例→筆者の考え」という構成を手がかりに、細かく読んでいく）</p> <p>③筆者の論の展開の仕方を確かめ、文章の要旨をとらえなおす</p> <p>④「心の世界」について自分の考えを書く</p> <p>まずは文章のおおまかな構成をとらえることで、筆者の伝えたいこと（要旨）をとらえる事から学習を始めたい。その後、各事例を細かく読み取ることで、筆者の思いをさらに深く感じ取り「自分ならば」という考えを形作っていけるようにしたい。</p>	<p>○学習習慣作り</p> <p>・6年生は学習リーダーを中心にして、自分たちで学習を進めることに取り組んでいく。課題解決に向けての見通しをつかむと、自分たちで時間配分を考え、学習を進めていく。個人での学びから交流・まとめ・ふりかえりという流れを基本に、本単元でも学びを進めていく。</p> <p>・5年生も一人学級ではあるが、自分で自分の学びをデザインさせたいと考えながら取り組んできた。学習の見通しを持つ手立てとして「単元の学習の流れ」の掲示や前5年生児童の作品を例示してきた。交流も同様に、前5年生の作品からの学びや、6年生の飛び入り参加、学習キャラクターを登場させる、教師も学びの一員として参加する等の工夫を行ってきた。このことを通して、一人での学びへの意欲にもつなげたいと願っている。</p> <p>○言葉の力を育てる</p> <p>・家庭学習や朝きずななどの時間を活用して、言葉に関わる学習プリントに取り組んできた。</p> <p>・「事例&意見」「根拠&意見」を意識づけること、自由研究発表など全校での発表場面では「投げかけ」→「話題の中心」→「結論と投げかけ」など、「聞き手」を意識した話の構成を意図的に使わせてきた。</p> <p>・「語彙を増やす」「表現の工夫を生かす」「表現を楽しむ」取り組みの一端として二学期から日記指導に取り組んでいる。</p> <p>○言語環境の整備</p> <p>・今年度から全校での読書の取り組み（読書貯金）を行っている。五六年生では、可視化すること、オススメの本を校長先生に伝えるという活動で、読書への意欲を育てることをねらいとしている。</p> <p>・関連書籍（「子ども哲学シリーズ」「哲学のモノサシ」「歳時記」「俳句入門」）を教室にそろえ、並行読書や参考図書として読めるようにする</p>
<p>○思考を支える支援</p> <p>・学習の流れの掲示（1時間ごとの到達点をはっきりした授業作り）</p> <p>・既習事項の振り返りを活用（掲示物の工夫・重要語句の押さえ）</p>	

5. 単元の目標・評価規準

5年

書く 言葉の使い方を工夫して俳句・短歌を作る

6年

読む 文章の内容を的確におさえて、要点や要旨をとらえ、自分の考えを広げたり、深めたりする。

関心意欲態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能	関心意欲態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
俳句・短歌を意欲的に書こうとしている	表現の効果を知り言葉の使い方を工夫して俳句・短歌を作っている B(1)オ	語感、言葉の使い方に対する感覚などについて関心を持っている 伝国(1)イ(カ)	筆者がとりあげた例と自分の経験を合わせながら文章の要旨を捉え、「心の世界」について考えようとしている	文章の内容を的確におさえて、要点や要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら読んでいる。 C(1)ウ	「心の世界」について自分の経験を混ぜながら感じたことや考えたことを文章全体の構成を考えて書いている B(2)イ	「序論」「本論」「結論」という文章の構成や、一つ目の例の反証として二つ目の例を提示し、それらの例から主張を述べるといった文章構成を理解している 伝国(1)イ(キ)

6. 単元の指導計画

5年 全6時間			6年 全9時間		
小単元名・時数	ねらい・学習活動	主な評価規準	小単元名・時数	ねらい・学習活動	主な評価規準
第一次 1時間	①教科書に載っている俳句・短歌について感じた事や表現の工夫について考え、学習の見通しを持つ。	(関) 自分なりに感じた俳句や短歌の良さを見つけ、発表する	第一次 2時間	①②本文を読み「心の世界」について感想文にまとめるという学習の見通しを持つ。 ・全体の内容を整理し、大きく三つに分ける。	(関) 本文を読んで、感想をノートにまとめている (読) 段落構成を整理している。
第二次 4時間	②好きな俳句や短歌を参考にし、俳句や短歌を作り、交流する。 ③季語から想像を広げて俳句を作り、交流する。 ④12文字を考え、それに合った季語を選ぶ(取り合わせ)の作り方で俳句を作り、交流する。 ⑤日常生活から発見したり感じたことから俳句や短歌を作る。	(書) 好きな俳句の一部をまね、俳句をつくっている (書) 季語から想像を広げて俳句を作っている。 ・・本時 (書) 取り合わせの方法で俳句を作っている。 (書) 比喻表現や語順、言葉を工夫して俳句や短歌を作っている。	第二次 4時間	③1～6段落から大きな問いを見つける ④⑤7～19段落から小さな問いを見つけ、例と筆者の意見を読み取る ⑥全文をとらえなおし、文章の要旨をまとめて書く	(読) 例と意見を区別しながら読み、筆者の考えを見つけている。 (読) 自分の体験と結びつけて筆者の考えを読んでいる。 ・・本時④ (読) 筆者の伝えたいことを整理して書き抜き、それをもとにして要旨を書いている
第三次 1時間	⑥「声問小句会」を開く。(五六年合同)	(関) 句会を行うことを楽しみ、友達の俳句の良さを見つけている。	第三次 3時間	⑦⑧学習したことをもとにして「心の世界」の感想文を書く ⑨感想文を読み合い、自分の考えを深める。	(書) 要旨や自分の経験をもとにして自分の感想や考えを整理して書いている。 (読) 友達の感想文を、自分の感想と比べて聞いている。